

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和2年12月18日（金）10時30分～12時00分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者  
原子力規制庁  
原子力規制部  
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
知見主任安全審査官、高松専門職、横山係長、市森係員、長崎技術参与、高木技術参与  
福島第一原子力規制事務所  
田中原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
プロジェクトマネジメント室 担当4名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
  - Eエリアタンクのスラッジ回収進捗状況について
    - ✓ 作業の経緯
      - ◇ E-D1, D2 タンク（フランジ型）を解体するには、残水（RO濃縮塩水）を回収する必要があるが、残水に含まれているスラッジによりタンク内が高線量のため、これまでと同様の手法でタンク内に入域して行うスラッジ回収が困難であること。
      - ◇ スラッジの回収は、攪拌機及び水中ポンプを用いて実施していること。
    - ✓ 当初予定では、2019年度内にスラッジの回収及び残水回収を終える予定であったが、コロナウイルスや酷暑の影響により10月まで作業を行えなかったこと。
    - ✓ 10月より作業を再開したものの、当初想定よりスラッジ回収率が悪く作業が難航していること。
    - ✓ 原因確認及び回収率の向上のため、タンクの水位を低下させたが、底部から550mm程度まで水位を下げた時点で、天板上の雰囲気線量が上昇したため、水位低下を中止したこと。
    - ✓ タンク内を確認し、攪拌機と水中ポンプの間のスラッジは回収できていたことから、今後、低下させた水位を戻し、攪拌機の方角を調整しながらスラッジ回収作業を継続すること。その後の方針については、改めて検討を行うこと。
  - 水処理概要ならびに処理対象核種について
    - ✓ 汚染水処理の概要
    - ✓ セシウム吸着装置（SARRY及びSARRYⅡ）の基本情報
    - ✓ セシウム吸着装置による核種除去システムの概要
    - ✓ 淡水化装置の基本情報
    - ✓ 淡水化装置による塩分除去システムの概要
    - ✓ 多核種除去設備（ALPS）の基本情報
    - ✓ ALPSによる核種除去システムの概要
- 原子力規制庁は、上記説明を確認した。

## 6. その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール
- 水処理設備の運転状況，運転計画（2020年12月11日～2020年12月24日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2020年12月11日～2020年12月17日）
- Eエリアタンクのスラッジ回収進捗状況について
- 水処理概要ならびに処理対象核種について